

---

国連教育ワークショップ in 福岡

---

# 国連をどのように教えるか

---

2009年8月21日



国際連合広報センター



# 「国連教育ワークショップ in 福岡」記録報告

はじめに

1	実施要項 .....	2
2	国連教育ワークショップの記録 .....	3
3	高等学校公民科での国際連合に関する記述について .....	23
4	国連教育に関するアンケート .....	25
5	国連教育ワークショップ 実践報告レジュメ .....	29



## はじめに

安保理やPKO、首相の総会演説、ハイチでの被災者援助活動など、現在、国連とその活動は国内メディアで頻繁に報じられています。2009年コペンハーゲンで開かれた気候変動枠組条約締約国会議（COP15）が大きく報じられ、お茶の間の話題のひとつになったのは記憶に新しいことです。また、最近では国連職員として、途上国など世界各地で活躍する日本人が新聞、テレビなどで取り上げられるのを目にすることも多くなりました。国連職員になることを将来の夢とする若い人も増えてきているように感じます。

しかし、一方で、日本の人々の間で、国連に関する十分な認識や理解が育まれているかという点、残念ながら、必ずしもそうではないように見えます。数年前のギャラップ・インターナショナルの国際世論調査においては、先進国の中で、フランス、ドイツ、英国、イタリアにおいて、国連に関する認識率がいずれも90%以上と高いのに比べて、日本は78%とやや低い割合となっています。また最近、ピュー・リサーチ・センターが実施した国際世論調査によれば、日本では国連に良いイメージをもつ人の割合が45%で、そうではない人が40%と、韓国（良い=79%、悪い=11%）や中国（55%、32%）に比べても低い数値を示しています。

環境やテロなど、私たちが現在直面する諸課題は、一国や数カ国のみで対処できる問題ではなく、世界の国々が協力し、解決を図っていかねばなりません。この多国間協力の中心となるのが国連です。そして国連は今や、NGOや企業などもパートナーとしながら、様々な形で、地球に生きる市民一人ひとりの人間らしい生活を保障すべく機能しています。国連について、様々な論議があるのは好ましいことだとしても、こうした国連やその多岐にわたる活動について、国民の関心や認識、理解の度合いが低いことは好ましいこととは言えず、国際社会の共通利益および日本の国益の双方の観点から、その改善、向上が必要であると思います。

私ども国連広報センターは、国連とその活動に関する正確な情報を日本の皆様にお届けすることを任務として、日々、活動していますが、その広報活動において、最も重要視している対象のひとつが青少年です。青少年たちこそ、将来の地球を担い、国際社会が直面する様々な問題と向き合っていかなければならない世代だからです。青少年たちが国連について十分に理解し、自らの、そして国際社会の問題について、どのように国連を活用し解決していくかを考えられるようになることが何より重要です。

国連広報センターはこのたび青少年を対象にした広報活動の一環として、「国連を教える」をテーマにしたワークショップをスタートしました。その規模は小さいながらも、教員の皆様との対話を大切にしながら、教育現場での率直な悩みや疑問などをお聴きし、当センターと共に学びあい、考えていく場としていきたいと望んでおります。

この報告書は2009年8月に福岡で開催したワークショップの内容をまとめたものです。全国の教育現場で国連を教える皆様、そして何よりも、将来の地球を担う世代である青少年たちの国連理解の一助となれば幸いです。

妹尾靖子  
所長代行  
国際連合広報センター

## 「国連教育ワークショップ in 福岡」実施要項

- 1 名称 国連教育ワークショップ
- 2 目的 国連に関する教育の現状を共有し、国連教育の質的向上を図る
- 3 主催 国際連合広報センター（所長代行 妹尾靖子）  
福岡県高等学校公民科研究会（会長 松木 敬明）  
ワークショップ実行委員会（代表 宗 弘昭）
- 4 後援 福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会  
日本国際連合協会福岡県本部、西南学院大学図書館 / 国連寄託図書館
- 5 実施方法  
国連広報センターが企画し、県内高等学校への案内は公民科研究会が主体となる。  
ワークショップの運営は、県内高等学校教員のうち司会、発表者等となる者で構成する実行委員会が行う。
- 6 期日・会場  
平成21年8月21日（金）  
福岡県立修猷館高等学校 2階講義室  
（福岡市早良区西新 6-1-10 TEL 092-821-9733）
- 7 内容  
開会 13:30  
高校教員による授業実践の報告、県内高校に依頼した国連に関するアンケート集計結果報告、学習指導要領・教科書等の分析報告 13:40～15:00  
コメンテーター（大泉 敬子 津田塾大学教授）によるコメント 15:10～15:40  
参加者による質疑、討論 15:40～16:20  
閉会 16:20



## 「国連教育ワークショップ in 福岡」(2009.8.21)

### 発言者

司会：宗弘昭・福岡県立修猷館高等学校教諭

挨拶：妹尾靖子・国連広報センター所長代行

報告者：藤田昭男・福岡県立城南高等学校

コメンテーター：大泉敬子・津田塾大学教授

### (後援団体)

村岡：村岡由利江・日本国際連合協会福岡県本部

星野：星野幸代・国連ハビタット福岡本部 本部長補佐官

古庄：古庄敬文・西南学院大学寄託図書館・副課長

**司会：**国連教育ワークショップを始めます。まず、国連広報センターからご挨拶をいただきますと思います。



**妹尾：**皆様、こんにちは。国連広報センターの妹尾と申します。現在、所長代行業を務めさせていただいております。本日のワークショップの開催にあたりまして、まずは、宗先生、藤田先生、それから福岡県高等学校公民科研究会の皆様、そして、実行委員会のメンバーの皆様には深く御礼申し上げます。このワークショップが、参加者の皆様にとって有意義なものになるよう願っております。私ども国連広報センターとしては、

福岡を皮切りに、今後、他の都道府県に展開していこうと考えております。すでに現在、大阪府や千葉県の先生方が関心を示しておられます。なお、本日のワークショップにつきましては、後日、私どものホームページ上に報告書を掲載し、今回ご参加いただけなかった先生方にも、その内容を広く知っていただけるようにしたいと思っております。



**司会 (宗)：**ここで本日、共催団体、後援団体を代表してご参加いただいている皆様をご紹介します。まず国連広報センターから、今ご挨拶いただきました妹尾所長代行業と、本日の開催にいたるまで、私ども地元教員のつくる実行委員会との事前協議や関係団体との準備調整を進めてくださいました千葉さんのお二人。それから、本日のコメンテーター、津田塾大学で、国際機構論を教えておられます大泉敬子先生。日本国際

連合協会福岡県本部から村岡由利江さん。国連人間居住計画(ハビタット)福岡本部(アジア太平洋担当)の本部長補佐官、星野幸代さん。そして、西南学院大学寄託図書館の副課長、古庄敬文さん。また、現場からの報告者として、城南高校の藤田先生にお越しいただいております。申し遅れましたが、私は福岡県立修猷館高等学校の宗弘昭です。

**宗：**まずは私から教科書に関するご報告をさしあげます。そもそも国連が、公民科の現代社会や政治経済でどのように取りあげられているか、あらためて新学習指導要領で確認したところ、従来とほとんど変わらず、1、2行の記載に留まっています。現代社会では内容の2、「オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割」において、「…国際的な組織の役割について認識させるとともに…」と書いてある部分を根拠に教科書では、数ページをとって国連の組織や活動が説明されているということになります。政治経済で

は2か所ありまして、1つは国際政治のところで国際連合をはじめとする国際機構の役割に関して記述があります。もう1つは国際経済のところで、「…国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させる…」とあります。現行指導要領からほとんど変わらない内容で記述されています。それを受けて、実際の教科書の記述はどうなっているかと申しますと、国際政治の2番目くらいのところに国連の組織と役割というのがあります。書いてある内容は、大体どの教科書でも、同じになっています。「国際連合の役割」ということで安全保障の2つの形態から入ります。集団安全保障方式が国連だとし、国際連盟を経て、国際連合が作られた、という記述です。組織は表で説明しています。内容的には安全保障の問題が中心です。さらに、教科書によっては課題として分担金や財政の問題や安全保障理事会の理事国の選出問題とか、アメリカの単独行動主義など。国連の活動において、うまくいかないところもあると指摘しているものがあります。ページ数も大体4ページくらいになっています。実は良く調べてみますと国連の名前が出てくるところは、この部分だけではありません。日本の政治のところで、国際的な人権の広がりという部分がありまして、そこで人権宣言や人権諸条約を紹介しています。それから、開発の問題のところで、難民条約とか UNHCR の活動を紹介しています。かなり詳しく人間の安全保障という概念を紹介している教科書もあります。難民条約とか UNHCR、UNDP の活動などは多くの教科書で紹介しています。それから国際経済のところで IMF、GATT、WTO の役割が、また南北問題の項目で UNCTAD がでてきている。これらも国連にかかわるところだろうと思います。それから、環境のところで、72年の国連人間環境会議など、様々な会議や条約も国連の活動なのだということが書いてあります。あとは核問題のところで、IAEA が紹介されています。最後に、国連憲章が巻末付録として大抵、どの教科書にもついています。大体、国連憲章の第1章、第7章が載っています。安全保障ということで、この章が載っているようです。一部の教科書では、世界人権宣言を載せているものもありました。現社、政経ともに内容については大差がなく、国際連合という項目のところでは、冷戦によって国連の機能が働きにくかった、課題が解決しにくかったといった形で、どちらかという弱気の記述が多いように思いました。教科書によっては、総会について、ほとんどすべての国が参加する「世界の議会」として、評価をしている教科書がありますが、多くはどちらかという、困難な面が強調されている感じがしました。ただ、国連の項目以外のところで、国連の活動がたくさん紹介されていますけれども、国連が…といった表現にはなっておらず、それが、私たちが意識しない原因かなあと思いました。ここらへんは、のちほど、みなさんにお聞きしたいです。

次は、アンケートについてですが、福岡県下の120人くらいの先生にお配りし、30人くらいから回答をいただきました。国連に関する授業は、政治経済や現代社会のほか、地理や世界史で扱われている方もいらっしゃいます。時間数は、やはり3時間ぐらいというところが標準のようです。また、アフリカを扱う時間はゼロということです。国連が今、地域的にはアフリカに最も力を注いでいるというなかで、それに関する授業がまったくないというのはどういうことなのかなと思いました。国際年や国際デーなどについてはテストに出るということで、勉強したこともあったんですが、私自身もあまり気にしたことはありませんでした。教科書の記述については今のままでいいという方が大半でしたが、「不十分」との回答には、リアルな説明が欲しい、今の現状を知りたい、という指摘がありました。教科書以外の教材はほとんどお使いにならないという先生方が多いようです。使っておられる方も資料集で8名、ユニセフなどの資料をお使いになる方がわずかにいました。国連の発行資料を使用したいかという質問に対しては、使用した



いとは思わないという方が半分近くいらっしゃいます。使用したい、使用させたい、という方は具体的活動を教えやすいという理由を挙げています。生徒の興味は、真ん中から低い方に山があります。この辺は教師側の回答と変わらないかなと思います。生徒が興味を持っているのは、やはり、環境問題、南北問題、あるいはPKO活動などです。それから国連職員になりたい生徒へのアドバイスについては、特にないと答えた方も何人かおられたんですが、国連職員になるために必要な能力を高める、広い視野を持つ、国際社会の動向に敏感になるなど、態度姿勢の育成の問題などが出されていました。

2つめは先生方自身の意識調査です。生徒よりは、国連に対し、良いイメージをお持ちのようですが、真ん中に山があります。まあ、それほど意識しているわけではないということでしょうか。情報源ですけれども、新聞や新書のような書籍をあげている方が多かったです。国連広報センターに直接問い合わせをして、入手に便宜を図ってもらったという方がおられました。それから国連情報の入手のしやすさに関しては、まあ真ん中くらいですかね。後は日本語ホームページによる情報掲載の充実を望むというのもありました。以前、私が国連開発計画（UNDP）について調べようと思いましたが、英語が多くて大変苦労したのを覚えています。文書資料が日本語に翻訳されるのが遅いようで、英語ページへのリンク掲載がほとんどでした。「国連について、誰かとお話しされますか」という問いに対しては、ほとんどないという方が多いですね。それから国連の活動としては、ユニセフ募金をあげられた方がいました。私もやったことがあります。「国連」とは意識しないで、「ユニセフ」の活動という感覚ですよ。そういうことで、全般的に国連そのものに対する関心というのがそれほどないんじゃないかなと、これが現実だなと思います。自分自身がそうです。国際政治の中ではやはり、国連は弱いという感覚をもっていて、ことさら紹介することもないか、と。「人間の安全保障」という概念を聞いた時、私自身はいたく感動し、こういうものをしっかり教えたいと思ったんですが、なかなか手がかりがないというのが現実です。長くなりましたが、これで終わります。



**報告者：**城南高校の藤田と申します。私が現在、どういった授業を取り組んでいるのかということをご報告したいと思います。もちろん、これが理想的な形とは思っていませんし、ただ私が現状やっていることをまとめているだけです。1つの問題提起としてとらえていただければ幸いです。私自身、今日は他の先生がどのように取り組んでいるかをお聞きして授業改善につなげたいと思っています。

まず、本校のカリキュラムですが、本校は公民科の場合、現代社会を2単位、1年生で全員受講します。2年生では地理・歴史（地歴）だけになります。3年生になりますと、10クラスのうち、文系4クラスのみ政治経済を2単位課しております。従いまして、文系選択者は1年と3年で公民科を現社と政経合わせて4単位となります。そして3年生では課外授業が1時間ございますので、合計5単位で受験体制へ持っていかななくてはならないということになります。ご承知のように、来年度まではセンター試験が地歴1科目、公民1科目という形となっておりますので、現代社会で受験する生徒の比率が非常に高いと思いますし、本校も例外ではなく、その形となります。基本的に、政経で授業はしておりますけれども、文系生徒はすべて現代社会で受験させるというかたちをとっております。1年生と3年生両方私が担当しますので、一応3年間を見据えた指導になります。2単位では到底教科書が1冊終わりませんので、1年生の現代社会では「現代社会の諸課題」と「経済」のみしか授業しません。そして、3年生の政治経済では、センター試験

のことを考えましたら、実質2学期までしか授業ができませんので、1、2学期合わせて国際問題だけを授業いたします。つまり、1学期かけて国際政治編、2学期いっぱいかけて国際経済編を実施します。ですから2単位、50時間ほどで、現代社会（現社）で取りあげなかった国際編だけを取りあげることになります。そして、国内政治であるとか過去問演習などは土曜日や、週1時間の朝課外、夏休みの課外などを使って、なんとかこなしているような状況です。非常に少ない時間の中でできるだけ幅広く教えようとしているんですけども、これが果たしてうまくいっているか。私も自問自答しながら毎年やっているところでございます。

それでは、国連関係について、政治経済の授業でどのように取りあげているかを簡単にご報告したいと思います。恐れ入りますが、レジュメをご覧ください。本校で使っておりますのは、東京書籍の教科書です。この教科書には、先ほど申し上げたように、1学期に国際政治編、2学期に国際経済編、ページ数にしまして両方合わせてもわずか30ページしかございません。いわゆる指導書に書いてある配当時間数に比べますと、国連関係に割くことができる時間は多くなっています。指導書は、国際関係全体で理想的な配当時間を8時間としています。1単位を35時間と考え、2単位70時間のうち8時間を配当するというのが例示されていると思います。本校ではこの単元を1学期間で、普通の時間数の3倍、24時間をかけて、特に国際連合のところでは8時間近くかけております。授業の進め方で一番問題となるのは、受験を意識するかしないか。それによって教え方とか、内容・深さが随分変わってくる点だろうと思います。と言いますのは、現実問題として、国際分野などはセンター試験等でたくさん出てくるんですけども、受験に必要な知識として教えるためには、いかに効率よく、いろんな知識や事象を教えるか、生徒に理解させていくか、詰め込むかということになると思います。しかし、受験を意識しない現代社会などは、まったく意識しないで進めることができるならば、いろんな具体例を取り入れながら解説をする。例えばビデオ教材を取り入れる。あるいは生徒のディスカッションを取り入れるというような方法で、たくさんの時間をかけて生徒自身に調べさせたり、あるいは実践報告をさせたりということもできると思います。ただ、この公民科で、特にこの国際編のところを受験勉強の一環として教える場合には、どうしても時間的な制約があって、やりたいことをなかなかできない。教科書に沿って駆け足でやらざるを得ないという状況になります。そんな中、通常の配当時間の数倍の時間をかけてやることができるのは、生徒にとっては非常にありがたいことなのかもしれませんけれども、教える方に見れば、時間がある分、その中でどこまで深く教えようかと毎回苦労しています。今年度1学期の実績として、ちょうど7月の終業式前までの授業をカウントしました。指導内容に関して、東京書籍の教科書に沿っていきますと、国連を含む単元の大まかな内容が、1番から6番までということになると思います。

1番最初に出てきますのが、「勢力均衡と集団安全保障」。ここを大体1時間くらいで私は話をしています。世界史である程度は習ってはいるんでしょうけれども、やはりその辺の知識が十分に結び付いてこない可能性がありますので、勢力均衡と集団安全保障の枠組みの比較、これだけで1時間、前置きとして説明しています。

2番目は「国際連盟の成立と挫折」。史上初めての集団安全保障体制である国際連盟が何故うまくいかなかったのか、なぜ第二次世界大戦の発生を防ぐことができなかったのか。国際連盟の欠点、弱点ですね。大国の不参加であるとか全会一致制が意思決定を遅らせてしまったとか、条件付きの経済制裁しかできなかった、強制力に乏しかったなど、事細かにやっていますが、これも1時間では足りないのかなと感じています。教科書では

非常にコンパクトにまとめてあるんですけれども、その文言を読んだだけでは生徒はほとんど理解できませんので、これをなるべく具体的な話を交えながら進めています。

3番目は「国際連合の成立と組織」。ここで約2時間ほど時間をかけますけれども、いわゆる6つの主要機関を中心にして、どういった構成になっているのか、主にどういった仕事を行っているのかということをお話していきます。2時間という時間制約のなかでは視聴覚教材等を使うことができず、基本的に板書で進めてまいります。極端な場合、安全保障理事会だけで1時間使ってしまうこともあって、どうしても他の機関については端折ってしまうという状況が起こってしまう。あわせて安全保障理事会の常任理事国の拒否権問題、それからいわゆる「平和のための結集決議」は結構センター試験に出るところですが、ここら辺について、どれくらい噛み砕いて説明するのかというのが、現在の私の大きな課題かなと考えております。

4番目は「国際連合と平和の維持」。ここも約2時間ほどかけているんですけれども、いわゆる国連憲章上は設置することになっていたはずの常設の国連軍、これがいまだに設置できない理由はなぜか。そして、それにかわって大きく取り上げられるPKOの問題。生徒がどうも理解しにくいところがあるようですので、このあたりもどのような活動をしているのかというのを、具体的に資料集等を使って例示をしているのですが、話すことが中心となるとなかなかうまく伝わらない状況があります。

5番目が「国際連合の課題」。一般的には、1時間の授業の中のごく一部で取り上げるだけなのでしょうが、私はここにも約1時間かけるようにしています。特に国連改革を中心に、分担金の問題であるとか、安全保障理事会の常任理事国を増やす、あるいは非常任理事国を増やすというふうな今日の問題。それから、アメリカ、イギリスによるイラク攻撃のあたりから出てきた多国間主義の崩壊、こういった国際連合が現在直面している課題について、できるだけ具体的な事例をもとに、生徒に伝えようとしています。

最後6番目に「地域統合の進展」。国連というものと、地域ごとの活動や、地域結合との違い、両者の役割分担、こういったところを生徒に伝えようとしています。

以上が一応、今年1学期の大まかな学習内容なんですけれども、やはり時間をかければかけるほど、どこまでやったらいいのかという問題が出てまいりますので、少し取捨選択をして、要点を絞り込まないと、ただいろいろな知識を並べただけで終わってしまうのかなという感じがいたします。

最後になりますけれども、今後の課題ということで、私自身が感じていることをいくつかお話をしていきたいと思っております。まずは、やはりできれば、目に見える教材を使いたい。生徒はそういう世代ですので、視聴覚教材を使えば一番いいと思っております。いろいろな教材があるようですが、こういったものがあるのかということ、具体的に把握できず、うまく活用できていません。それから視聴覚教材は最短20分程度の短い物もあるということなんですけれども、少し長いものになりますと50分、60分と非常に長い物がありまして、1時間でも収まらなかったり、あるいは1時間見せっぱなしで終わってしまうという問題もあって、なかなか限られた時間の中で手を出すとすることができない状況がありますが、できるだけ新しい情報を私たち自身がキャッチをして、必要に応じて授業の中に取り入れることができればな、というふうに思っています。

それから、今日は国連教育のワークショップという機会を持たせていただきましたけれども、公民科はみなさんも御承知のように、「何々教育」というのがもう非常に多くて、どこの部署に属するか分からないような文書がくると、必ず私の所に回ってきます。い

らないのは適当に捨てといて、という形で回ってきます。確かに授業に役立つようなものもあります。「消費者教育」や「金融教育」など、「あっ、これも経済の授業で使いたい」、「これも政治の授業で使いたい」、と思うようないろいろな資料があります。また、いろいろな研修のお呼びがかかるんですけども、実際、1人の人間がそこまで動くことができませんし、となると、やはり自分の興味関心が高い所だけにしてしまうか、あるいはどれもできないまま机の上に積み重ねてしまって、いつのまにかゴミ箱に消えていってしまうといった問題もあります。各方面から、こういうことを教えて欲しい、ああいうことを教えて欲しいといった要請が公民科に寄せられますが、これは、公民科に対する期待の表れではないかなと嬉しく思う反面、なかなか現場でうまく受け止めて実践に結び付けられないというジレンマがあります。私は個人的には非常に国際関係に関心がありますし、国連の問題は重要なことだと思っておりますが、やはりそれがなかなか周りに広まっていけないというか、学校では受け止めていただけないというところがあるという気がします。最後に、やはり時間的な制約の問題です。受験を意識すると、どうしてもいろんな分野をやらなければなりませんので、国連の問題だけに時間をかけるわけにはいきません。その限られた時間の中で、いかに効率よく、どこを教えたらいいのか。これはもう私たち自身が研修を積んでいくしかないのかなという気がいたします。今回のワークショップを機に、自分自身の授業のあり方をもう一度考えていってみたいと思っています。

早足でまとまりのないお話をいたしましたけれども、冒頭に申し上げましたように、あくまでも問題提起として、今失敗を繰り返しながらもこういう取り組みをしているというご報告をさせていただきました。先生方から、いろいろご意見をいただきながら、私自身も勉強させていただきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

**司会：**ありがとうございます。ここで、本日ご参加の皆様から、私はこんな授業を展開しているとか、こういうふうにしていたとか、あるいは逆に国連というのは意識せずにはやってきたというような、ざっくばらんなお話を伺えればと思います。



**参加者 1：**北九州高等学園の塩田と申します。よろしくお願いたします。今年度、赴任いたしました本校は、特別支援学校です。その前は嘉穂高校という進学校にいました。さらに、その前は戸畑工業高校という専門高校にいました。現在の特別支援校では、なかなか「国連」といったような大きな概念を教えることは難しく、生徒の生活に身近な、生徒に近い概念を教えることしかできませんでした。また、専門高校でも就

職がある関係から、政経、現社というのは結構、入社試験に重要な位置を占めます。高卒の公務員試験もそうです。ところが、出題内容を分析してみますと、国家Ⅲ種などではない限りは、身近な経済や身近な国内経済や国内政治といったところが重点になっています。入社試験等が悪いというわけではないんですが…。

次に進学校では、公民の教科としての位置づけが、他の教科と違うような感じがあります。つまり、高校の中で主要教科というと、一般的に国・数・英になりますし、例えば国語の中でも文学史のような深く掘り下げるものよりは、助動詞を覚えるなど読解に重きが置かれ、英語もリスニング等が入ってきていますが、やはり実践英語というよりは受験英語です。つまり、高校である程度、知識を膨らませて、大学でより専門性を高

めましょう、と。生徒にとっては、公民を深く勉強するのは早過ぎるといった感じですが。また、全国の国公立大学の入試科目を考えてみましても、理系だったら、例えば、このあたりで言えば九州大学などの理系もそうなのですが、「現代社会」は選択教科として認めませんよという感じですね。その意図はわかりませんが、教科ごとの単位数とかの関係で、世界史や日本史よりは単位数が少ないので、選択から外されているという印象を受けます。生徒としては、目下の目標である入試には関係ない、ということになるんですね。そういう現実を踏まえまして、授業を組み立てなければなりません。私が進学校にいた時には、2年生から文理が分かれるのですが、その選択を1年生の1学期中にするんです。理系を選択した生徒は、「理系に行くため、地理を選択するから、現社はいらないよ」となります。

また、先ほど藤田先生は「公民科が期待されている」とおっしゃっていましたが、確かに、様々な教材・資料が私の所に回されてきて、それらの教材・資料だけで棚がいっぱいになるくらいでした。例えば、現在話題になっている裁判員制度などの資料は詳しい資料をたくさんいただきました。国連関係についても、DVDなどかなりの資料いただきました。ところが、それを活用するだけの時間配当があるかというところと無いし、生徒も興味を持っているかといったら、そうでもない。300名ほどいけば、確かに国際関係の仕事をしたという生徒もいます。しかし、じゃあ、それが国連かというところと、そうではなくて、外務省ということになる。先ほどの藤田先生からの実践報告にもありましたが、生徒にとって、「国連」は遠い存在です。国連を総体的にとらえることもない。たとえば、個別の条約やPKO等は、試験にでるからといって勉強していながら、IMFやIBRD、IDAを国連の組織として意識することがない。もちろん、私たちも教える際、最初に国連の組織については教えているんですが、国際経済を学習するときには、経済組織単独の話で終わってしまう。

とりとめのない話になって申し訳ないのですが、私が進学校、専門高校を経験して感じたことを申し上げました。受験とは無縁の学校だったら、国連について教えられるのかといえばそうではないんですね。専門高校でも就職させないといけないわけですから。就職試験の分析をしたら、やはり国内経済、国際経済が重要で、国際政治はおろそかになっているのです。また、国際政治の中で、生徒が興味を持つところは地域紛争、それも、どこで起こっているかというところまで。国際経済については、貿易の現状がどうなっているというところまで、現在、なぜそうなっているのか、現在のシステムはどのように構築されたかなど、それを超えてしまうと途端に生徒の興味がなくなっていくように感じられます。国連の組織が巨大であるが故に手が届きにくい、さらに巨大である割には、「主権国家」で構成される組織ですので、例えば日本における「国会」ほどの権限を持っているわけではない。あいまいな国連について深く知っても役に立たないと感じているんじゃないか、と私は個人的に考えています。本当にとりとめのない話で申し訳ありませんでしたが、私が2つのタイプの学校を回っての印象を申し上げました。



**参加者2:**糸島高校の岡田と申します。国連の授業をするのは、どちらかという気が進まないです。というのは、国内政治に関連して、総理大臣選出あるいは裁判員制度もそうですけれども、透明性が大切だということが叫ばれましたよね。そういう価値観から考えると、ルーズベルトとチャーチルが大西洋の上で談合して、設立が決まった国連というのは、そもそものところから、まあきつい言い方かもしれないけども、

ちょっと正当性が無いのかな、と。まあ、東京裁判を批判するような人々と同じような発想になるかもしれないけれども、なぜ敗戦国は排除されて、51カ国から始まったのか、と。今の生徒たちというのは、小学校の時から、何か意思決定をする時には全員参加で、みんなで決めましょう、ということが染み込んでいる。そういう世代ですから、そういう話をしたところで、もう勘のいい子は、「あれ、国連というのは、一部の人が、始めたんじゃないか」というふうなことに気が付きます。そこをどういうふうに克服したらよいか。

**司会：**そのほか、どうでしょうか。



**参加者 3：**北九州の八幡南高校の中川と申します。今のお話をお聞きして、一つは、「〇〇教育」についてですが、「法教育」や「金融教育」、そういうものが要請されるんですね。特に法教育などは、裁判員制度が入ってきたこともあって、必ず学校でやりなさいというふうにもなっておりまして、たまたま今年の夏に、鹿児島に行きまして研修会に参加したんですけども、そこでは法教育の発表がけっこうありました。

4時間あるいは5時間かけた授業が、現社・政経の2単位の中で行われている。さらに特別の「〇〇教育」をしていくというのは、非常に難しいかもしれない。それから、去年1年生の英語の教科書を何気なしに見ていたら、「おばあちゃんの時代には…」とか、あるいは友達との会話を紹介する形で、戦争のことを扱っていました。また、2年生の模擬試験の監督中に、長文の問題を読んでいましたら、環境の問題とか取り上げられているんですね。カーシェアリングや、自転車を使うことによって、二酸化炭素が減らされて商店街が活気付いたとかですね。英語の指導要領は読んだことはありませんが、教材として取り上げている内容を見ると、われわれ公民科の教員が読んでも面白いものもある。英語の教員も、国連なり、あるいは環境なり、人権なりについて勉強しないと、その内容は教えられないような気がしました。そういう外国語教育の中で国連教育なり、環境教育をやるというのは、面白いかもしれんなと思ったんですね。かつて、現代社会や、総合の時間が入ってきた時に、教科横断的に英語の教員と社会科の教員が、どんなふうにして分担しながら、授業を組み立てていこうか、と話が出ていました。私は4校経験したのですが、そのうちの2校は学力的に非常に厳しい子たちがいるところで、新聞なり、時事的なことについては、なかなか生徒の興味がいかないところがありました。ひとしく、国連教育をやらなければならないというのはわかりますけど、難しい学校もある。日々の授業ではどうしても、国内政治・国内経済のことから話が入ってしまう。私は実は、まだまともに国際政治や国際組織を教科書で順番どおり教えたことがないんです。ついこの間、日本の平和主義をやったんですけど、日本は集団的自衛権については憲法上行使することができない、と書いてある箇所、先の方について、国連憲章ではどうなっているのかな、と。そういう比較のレベルで話をします。特別に国連を取り上げるのは、もうちょっと時間が過ぎてから、受験勉強の中で、つまみ食いのやるだけですね。

**司会：**ありがとうございます。

**参加者 4：**東筑の白石と申します。専門は日本史です。本校の場合、公民を担当する教員は1人もおりません。現在、3年生で現代社会を教えています。11月までに終わらせなければならず、国連をまともに教えたという記憶がありません。ただし、受験には

関係していますので、国連についてどういう問題がでるかということは、意識しておかなければいけません、ただ、センター入試はどうなっているかといえば、組織、国際紛争の解決に偏っているように思います。これでは、国連を教えるといっても、偏った授業になってしまう。国連教育を広めるというのであれば、その受験の問題から考えていただければありがたい。それに、九大などもそうなのですが、公民の配点っていうのが非常に低いんですね。日本史・世界史とかに比べて半分に削って、50点にするとかです。環境問題が叫ばれている世の中だし、もう少し大学側も考えていただきたい。そうしないと、国連を教えようとしても、厳しいなという感じがしております。

**司会：**古城先生、どうぞ。

**参加者 5：**こんにちは。北九州の私立の希望が丘高校の古城といいます。よろしくお願ひします。先ほど、東筑高校の先生のお話と全く逆なんですけども、うちの学校の場合は、6割が就職、4割が進学です。進学の中なかでも、8割から9割が推薦で進学していく子供たちですので、受験を意識せずに授業をしています。私は現代社会の授業をしていますけど、本当に浅い授業をやっているなど、つくづく反省しています。国連の授業をやっていく時に一番気になるのが、子どもたちの政治への無関心な態度です。今、国内政治でもいろいろな動きがありますが、そういうことに無関心、疎い。そういう子どもたちが多いですね。戦争が終わって60年かかりますけれど、戦争の悲惨さへの意識も薄れていっているんじゃないかな、とつよく感じます。それでも、消費税の問題なんかは、生徒は耳をダンボにして、関心を向けます。「消費税が10%になるかも知れんぞ」「まあ、10%の前に7%が来るかもしれないね」という話をすると、すぐに自分のこととして反応するんです。しかし、国連の授業では、何かこう、ピンと来ないんですよ。子どもたちが、何とか自分たちの身近な問題としてとらえられる、そういう授業をしたいなど、いつも思っています。私の力不足が原因なのかもしれませんが、できたら、その辺についてアドバイスをいただきたいと思います。

**参加者 6：**こんにちは。八女学院高校から参りました。八女市にありますけど、もうちょっと行くと、熊本県です。地方の田舎の学校ですけれども、生徒たちはほとんど大学へ進学していきます。現代社会に関しましては、1年時に必修で1単位、2年時に1単位、そして文系で選択する生徒たちが3単位。そして、3年生で選択となります。私は、1年生の現代社会を1単位、2年生で1単位、担当しております。今日は、皆さんの現代社会の充実に向けた意欲がすごく伝わってきました。私の場合は、中学を卒業してきたばかりの高校1年生に対し、1週間に1時間の授業を受け持っておりますが、他に大変な教科がいっぱいあるんですね。1週間に7単位も8単位も、課外を入れて10時間も勉強しなきゃいけない、英語とか、国語とか、数学とか、いっぱいあります。まず、生徒たちには、「現代社会のこの1時間は、息抜きの授業だよ」、「楽しんでほしい」ということを言います。授業では、最初の5分、10分、必ず時事問題を扱います。それから、うちの学校では毎朝、朝日、毎日、読売、西日本の4紙のコラムを、全校生徒に刷って配布するんですね。朝のホームルームのあと1時間目までの間に、ほとんどの生徒が目を通すんですけども、そこで分からなかった問題・テーマがあると、質問しようと思って、教師を待ち受けています。藤田先生がおっしゃったように、受験を意識するかしないかで授業の展開というか、授業の中身が全然違ってくると思うんです。国連に関しましては、今年9月に国連総会がスタートしますね。そのあたりで必ず、日本代表の演説や総会開幕そのものに関して、「今日始まったよ」、「今回の日本の代表は〇〇だぞ」という形で授

げかけたり、演説の趣旨などが発表されていれば伝えたりします。国連の授業に入りましたら、教科書とか指導書とかに沿って、最低限の知識は、勉強するようにしています。それから、国連協会主催の「高校生のための国際理解、国際協調のための主張コンクール」に、私が担当する課外クラブの生徒を必ず出場させるようにしております。「国連改革」、「国連ミレニアム開発目標」など、課題・テーマを与えられますので、インターネットで調べたり、図書館で調べたり、何とか一つの文章に仕上げます。部員が弁論大会で主張した演説は、全校生徒で聞く機会を設けます。自分たちと席を並べている生徒がこう言ったとか、ああ言ったということに感動したり、共鳴したりしながら、関心を持つようになります。

**参加者7：**西南学院高校の水町と申します。よろしくお願ひいたします。今、八女学院の先生のお話をお聞きして感心したんですけど、僕もそういう授業したいなと思っています。受験なんて嫌だなと思っているんですけど、向き合わざるを得ません。現実の問題と与えられたテーマをどう結び付けるかということで、私の場合は月に1回、前月の時事問題をまとめて、月の最初の授業で説明します。最近では、新型インフルエンザの話をして、WHOや国連に結びつけていけたらいいなと考えています。あとになって、授業で国連を教えるときに役立つかなと思ってやっています。受験については、新センター試験で地歴と公民が一緒になったことで、もう少しは理想的な授業ができるかな、と期待しているところです。城南高校の実践はびっくりしました。こんなにやるならもう大学になんか行かんでいいじゃないかと思いました。私は短時間でものすごい勢いでやっているわけで、本当にどこまで生徒が理解しているのか分からないまま終わっています。学校の授業で決められた時間しかないの、その中で非常に苦しんでいます。本当に理想的なのは、やはり生徒たちにとって現実の問題なんだよというところに近付けること。生徒を見てみると、世界史、政経で共通のことを教えているのだけれど、どうも違うことを習っているように彼らは意識しているみたいです。私たちはそれをつなぐことが下手なんじゃないかなと思っています。特に現代社会を教えてみると、青年心理学などが山のように出てきますが、それは保健でやっているわけですが、でも保健でやっていることとも微妙に違って、何か無駄な時間を使っているような気がするし、そこから辺で、科目の枠を超えるというか、そういうことができればいいなと感じます。まあ私としては、大事なことは、教養を身につけるということだと思っています。

**司会：**一通りいろいろな感想を聞かせていただきましたところで、前半を終了いたします。

<休憩>

**司会：**後半は、コメンテーターの大泉先生（津田塾大学教授）から、お話をいただきます。



**コメンテーター：**ありがとうございます。教科書では、必ずしも国連を包括的あるいは体系的に扱ってはいないようですね。しかし一方で、公民に関する学習指導要領の目標を見ますと、大変立派なことが書いてある。「民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質」を養うように教育してほしい、と。これはなかなか現場で大変なことだな、と思いました。そして、アンケートの結果やみなさんのお話を伺っていて、先生方の日頃の苦勞がよくわかりました。国連といっても教科書の記述が不十分なのに、何を実際に教えたらいいいのか、何を中心にしたら、あるいは補



足したらいいのか。どういうところを選んで組み合わせたらいいのか、ということ悩んでいらっしゃるのがよくわかりました。

平和とか安全保障、というのが国連の主な仕事という感覚が大きいんだらうな、と思います。国連憲章も教科書に載っているのですが、第1章第1条の1つ目しか書いていないんですね。実は、第1条には、4つの目的が書いてあるのですが、第1条の第1項「平和の安全と維持」だけが突出して載っている。国連というのは、「狭い」平和、国を守るという意味での安全保障、あるいは防衛といったことをいろいろ国が集まってする所だと教えなさい、と言っているように感じます。もう一つは、国連の組織図とその説明ですが、安全保障理事会があってね、総会があってね、ということで、それはそれで説明としてはいいのだけれど、実態がわかりにくい。国連や国際機構は終始動いています、生きていますね。時代の変遷によってその姿が異なる。生きて国連、生かされている国連という発想というのがないように思えます。勝手に自分で生きていくのではなく、何者かが生かして初めて存在している国連。

そういうところがなかなか教科書の中には取り込みにくい。教科書にそういった現実面を盛り込むというのはもともと難しいことであって、それをフォローするためにどういう教材を活用するか。国連広報センターは、いろいろな日本語のパンフレットをつくっておられます。子供向けのマンガ教材「みんなの国連」というのもあれば、「人間の安全保障」という小冊子も出ています。また、UNDP（国連開発計画）日本事務所からは「ミレニアム開発目標」というパンフレットが出ています。ちなみに、皆様と同様、私のところにも、いろいろお知らせが郵送されてきますけれど、「あら、こんなシンポジウムがあったのね」、と後から気づくといったことはよくあります。

先生方が努力されていても、生徒さんの関心は、実はあまり高くない。社会的な関心というか、そういうところに、なかなか今の子供たちは目が向かない。指導要領の目標の中には、公民としての資質を養え、ということが書かれているわけで、その相克に悩み苦しんでおられるのではないかと思います。先生方の意識の中でも、国連のイメージは「悪い」というわけではないにしても、さほど関心があるわけでも、評価しているわけでもない。さきほど、あんまり積極的に教えたくない、気が進まないと率直におっしゃった先生がおられましたが、先生の意識の中で、おそらく、国連憲章の目的の最初に掲げられている、平和のための機構であるというイメージが非常に強いのではないかなと思います。

実は今日、私からは、それだけじゃないんですよ、ということをご説明しようと思っています。人権や環境など、いろんな活動領域がありますね。特に、開発に関しては、意外と扱われているところが少ないけれど、これは教科書の中の経済で扱う課題なんですね。これまで「国連教育」という言葉を必ずしも使ったことはありませんでした。あまり馴染まない。国連を特化して、「国連ってこういうもの言うんだよ」というのが、国連を教えることではないはず。国連というものはいろいろなことをして、各教科のいろいろな単元で扱い得るものです。少なくとも、教える側に、各単元の内容と国連をつなぐ何かがあれば、だいぶ生徒たちは考えるようになるんじゃないかな、と思います。生徒にとっても、あるいは現場の先生方にとっても、国連はあまり身近な存在ではないのですね。私もそうです。毎日、朝から晩まで国連のことを考えて生きていくわけではない。当然のことです。ただ、遠い存在に思えるけれど、どこかに身近に考えられる何かがあるはず。「あなたたちの暮らしとこんなふうに関わっていますよ」「私たちの生き方とこう関わっているのよ」あるいは「日本という国、九州、福岡とこう関わっ

ているのよ」と。そんなふうに教えることができたらいいのかな、と思います。「こうやったら、絶対受験に強い、国連についての勉強ができますよ」ということをお話しすることが私の今日の目的ではないんです。今日、お目にかかった先生方が教室に持ち帰って活かすことができるためのベース、あるいは意識、そんなものを示すことができたらいいかなと思っています。

ある寓話ですが、昔、大きな象がいて、そこに目が不自由な人たちが集まった。「象って、どういうものだろう」ということになり、鼻の先を触る人は「この長い鼻が象である」、尻尾を触る人は「尻尾の先でふさふさしている所が象だ」、足を触る人は「この太い足、たくましい足が象だ」、目を触る人は「かわいい目が象だ」と。「じゃあ、一体、象は全体としてどうなっているの?」。何を申し上げたいかということ、国連についても全体を見ることが大切ということなのです。必ずしも我々研究者が勉強しているからといって、ひとつの確固たる全体像をお示しできるものではありません。安全保障とか、狭い意味での紛争に係るような平和の活動だけを行うのが国連ではないんだということです。開発だとか、人権や環境を含めて考えなければならない。国連は国の集まりですが、今は、国だけが集まって国連を動かしているかということ、そうではありません。また今は、全員一緒になって決めていくようなルールでやっていますが、創設時を振り返るとちょっと違う。創設はアメリカが中心でした。残念ながら時間的な制約のなかで、その時々、象の足と鼻だけを教えなきゃならないんだけど、それは全体の中のこの部分をあなたたちに提示しているんですよという意識で教えていただけたらいいのかなと思います。

「国連ってどういうもの?」、「国際社会でその存在意義は何か?」。第二次世界大戦後、大きな国が勝手に作ったのかということ、必ずしもそうではない。歴史を遡ると、国連に代表される国際機構は、国際連盟より古く、専門分野別の国際機関による国際協力というところから始まっている。しかし、国連を教えるうえで大切だと思うのは、日本、あるいは私たちとどう関わっているのかということです。国連は遠い存在では決してない。学習指導要領には、日本の国の公民として、という文言がありますが、大学の教師としては、もう一つそれにプラスして、国際社会の中に生きる地球市民、世界の中の一員っていうんでしょうか、「百人の村」の話もありますけれども、そういう意識を持った公民、社会人になっていく過程の一時期をみなさんが教えておられるということが大切なのかな、と思います。

さて、先生方が国連について生徒たちに教えるとき、その時の「国連」というのは何だろうか。もうそろそろ国連総会がスタートします。この「国連」は、全部の国が集まってワイワイ、ガヤガヤするところです。最近の北朝鮮問題などについて、国連が役にたっているとか、たっていないとか議論するなかで、果たして、その国連とは一体、何を指しているのだろうか、ということは問うてみたらどうかなと思います。国連は、国際機構ですが、国際関係の中で今や国だけが国際関係を作るわけではない。いくつもの「アクター」 — 「行動主体」とか「行為主体」とか言うんですけども — そういうものが相互にいろんな関係を織りなすものが「国際関係」です。そのなかで、国々が結びあい、つながって作る組織、その国際関係を作る一つのアクターが「国際機構」です。国際機構のなかで、世界のほとんどの国が集まった、しかもこれだけ長命な、世界的な規模の国際機構というのは無かったのです。国際連盟にしても、20年持たなかったわけですね。一方、国連はもう還暦を過ぎています。そして、私たちの日常の暮らしに関連するほとんどの問題を扱っています。メンバーシップが普遍であるし、その活動は総合性を持っている。目的は、安全と平和だけじゃない。人々の間の友好関係、人権の保障、

環境保全。私たちの国の省庁が扱っているようなことを総合的に全部扱っている。

大学の「国際機構論」という講義では、国際機構には4つの要件があると教えます。1つ目は複数の国が作っているということ。ちなみに、国連の加盟国は51カ国から192にまで増えています。2つ目は、何の目的で、どういう機関で、どんな方法で投票して決めるのか、といった約束事を決めた設立条約。国連の場合は国連憲章です。教科書に入っているのは、良いことだと思います。3つ目は目的。国連憲章がうたう目的の1番目は「平和と安全の維持」です。2番目は、自分たちの国の自決ですね。人々が同じ権利を持って尊重されて、その友好関係を発展させること。それから3つ目は、経済、社会、文化、人道など、いろいろな問題を解決する。人権、男女の性の違い、言葉、宗教などによる差別、こういうものを無くしていくこと。4つ目はいろんな総合的な課題の解決の中心となること。まずは、こういったすべての目的を提示すると、多少、体系的に見られるかなと思います。国連は、いつも活動している組織体であって、6つの主要機関があって、その下部機関、それから専門機関というものがくっついて、一緒に活動している。でも突然最初から、組織図はこうなっただけ、こういうふうな組織が国連ですよと言われても、「だから、何？」となる。国連は組織であると同時に、それを通して「生きて活動している」もの、あるいは「生かされている」ものです。

ここで、私たち研究者が最近、国連というものをどういうふうに見ているかということについて、ちょっとだけ、お話をいたします。国連はいくつの顔をもっているのでしょうか。どんな役割を果たしているのでしょうか。どんなアクターが国連の中で政策を決定したり、実行したりするか。国際機構ですから、国ですね。ところが、今、三つの顔があるんじゃないか、と言われます。第一の国連と言うのは、関係国が集まって、議論をしたり討議をしたりするような、外交の場としての国連ということですね。具体的に言えば、総会、安全保障理事会など。安全保障理事会が麻痺して、生きてなかった時代がある。国連が悪いの？ いや、国連という組織が悪いんじゃない。そう、活かさない方に問題がある。じゃあ、何故活かさないの？ 冷戦という国際環境があった。というふうな相関関係があるわけですね。国連が安全保障上動かなかったから、PKOが出てきた。PKOというのは平和維持活動のことで、武力を使わず紛争を鎮めようとするものとして出発した。また創設からまもなく、国連を中心にして、植民地を無くしましょう、開発を進めましょう、ということになり、大きな成果があった。評価できる場所も、評価できない場所も、第一の国連、加盟国が外交し審議する場としての国連です。国際環境の影響をそのまま受ける、国際関係の鏡としての国連です。麻痺することもあるわけです。こういう国連が基本です。

第二の国連とは何か。たとえば安全保障理事会でPKOをシエラレオネに出しましょうとなって、どういうふうに、どこの国からどのぐらいの兵士を出すのか、計画をします。これは、加盟国の代表がするわけではありません。これを行うのが第二の国連です。つまり、政策決定やその準備、実行の手助けをする事務局であり、そこで働く国際公務員たちです。ニューヨークの国連本部だけではない。いろいろな国、地域にある国連。実際にまとまって組織として動くような国連。これが第二の国連というふうに私たちが見ているものです。今、潘基文さんが事務総長でいらっしゃいますけれども、事務総長の役割には大きなものがあるんじゃないかと思います。ただ単に加盟国が決めたことを実施するだけではなくて、今の時代こうなっているから、加盟国の国々のみなさんにはぜひ、こんなふうに、国連のあるべき姿を考えてほしい、とガイドラインを提案する。潘

さんの前がアナンさんでしたが、彼は主権には二つあるということを言い出した。今や国家主権だけの時代ではない、人権という人間の持つ主権があるんだ、と。人間の安全を保障する考え方の重要性を訴え、国連の仕事に取り入れていくことを提案した。つまり、あるべき姿というか規範をつくり出すような役割も果たす。ここが大変重要なところで、そういうものが高校レベルで教科書に載ってくるのが無い。それを教えるようにと強制するわけではないんですけれども、国連を見ると、やはり第二の国連という一面があるということは、重要です。

そして、第三の国連です。最近、強調されはじめていることなのですが、誰がここに新しく関わってくると思いますか？これは実は市民社会、今流行りの言葉でありながら難しい概念ですが、NGOなどがそうです。国家でもなく、事務局や国連職員でもなく、社会を構成する人びと、つまり私たちです。最近、ビジネスもここに関わってきています。ビジネスはグローバル化の負の影響のイメージがありますが、人権の保障にしても、労働基準の遵守、環境保全にしても、あるいは途上国での腐敗防止にしても、ビジネスにはもっと社会的責任を意識しながら、国連と連動して何かやってもらえないだろうか、ということで、2000年から「グローバル・コンパクト」という試みが始まりました。先生方が教壇から国連と言ったとき、それがどの国連のことを指しているのか、と意識していれば、国連はそれだけではない、それは全体の一部だということが伝わるはずです。そして、それをきっかけにして、生徒が自分たちでインターネットで調べたり、本を読んだりして、勉強してみようとなればいい。そんなきっかけになるような授業が大切かなというふうに思います。今の国連では、今の時代の要請に応えられない。じゃあ安全保障理事会をどう変えるの、ということになって、NGOなどがとても重要だという話にもなってくる。90年代に入ってから、安全保障理事会では、議長を務める国々が必要な時に、非公式に協議し、現場でPKOをどういうふうに展開したらいいか、などに役立て始めているのです。

国際機構という一つの重要なアクターである国連は突然誕生したものではありません。大学の講義では、1648年のウエストファリア条約に遡って話をしますが、1800年代から、主権国家は国際機構の赤ちゃんみたいなものを生み出し始めました。そのとき、国際機構の誕生には2つの大きな背景がありました。一つは産業革命です。産業革命があって、国々の接触が増えると、トラブルの防止や調整などの必要性から、いろんな専門的な機関がつくられ始めた。もう一つは、戦争です。3つの戦争が国際機構を作ったと言われます。最近の2つは第一次世界大戦と第二次世界大戦。え？もう1つ国際機構ってあったっけ、いいえありません。最初のもは機構になっていないけれど、例のナポレオン戦争の後のウィーン体制です。もちろん勢力均衡ですから、あの時は同盟でしかないんですけれども、フランスという本来は外に置いておきたいものも入れ込んで5カ国の同盟を作りました。主要な国家が構成するという点では、今の国連安保理の常任理事国と似ています。歴史の流れの中で、国際社会の組織化の中で今があるという意識はやはり重要だと思います。国連の組織図に専門機関の名前が書いてありますが、実は産業革命後に生まれた専門機関がいくつか今なお残っているのです。最初に生まれたのが国際電気通信連合です。そして万国郵便連合、世界気象機関、世界知的所有権機関など、1800年代の後半にできたものが連綿と続いて今に至っています。国連を考えるうえで大切なことは、歴史的な流れという視点なのです。

国連は生きているし、変化してきている。国連憲章は、「われわれ連合国の人民は…」で始まっている。英語では、「We the peoples of the United Nations」。この「the peoples

of the United Nations」というのは当時は「戦勝国の人々が」という意味でしたけれども、今、実際にはこの「peoples」というのが世界全体の人々となる。当時の「United Nations」というのは、本来、連合国のことです、日本語では国際連合と訳されましたが。それが、今に至ると、国際社会の中の間人それぞれが、どう平和で安全で友好関係が築けるかというふうな意味合いに変わってきている。憲章のこの最初の文章が良かったのか悪かったのかというと、今にして思うと、あれで良かったのかなと思います。それから、国家だけの防衛的な安全保障ではなく、人々が紛争のような恐怖から自由であって、あるいは貧困のようなもの、人権の抑圧のようなものからどう自由であるか、という「ヒューマン」な側面、人間を対象にする安全保障という大変重要な仕事をするに至っているという視点は重要だろうと思います。

理念的なことを大泉は言うけど、実際にどうしたらいいかを聞きたいんだ、とお考えになっていらっしゃるかもしれません。皆さん、新聞の切り抜きを使った授業をやっておられますが、私も8月の新聞記事から国連関係の物をちょっと調べてみました。結構いろんなものがあります。アンネの日記がユネスコ（UNESCO）の認定する世界遺産になったとか、新型インフルエンザの関係で世界保健機関（WHO）のニュースもある。それから北朝鮮の問題や、アウンサン・スー・チーさんの問題、つまり人権にかかわる国連が結構出ていますよね。国内の新聞記事や書籍、雑誌などは、国連広報センターがモニターしてホームページでアップしていて、クリックひとつで、すぐにわかります。それから、ビデオも、良い教材になると思います。国連広報センターが日本語版に直してくださったビデオ（15分～20分）で、国連の概要、それこそ象の全体像が大体わかる。50分しかない授業の中で20分見せるのは厳しいかもしれないが、端折って見せるのも良いかもしれない。

私は大学の授業の中でよくクイズを取り入れます。時事問題のクイズをやりますし、その時のコラムとして何か必要なものは科目のその時間のテーマと関係がなくても入れ込んだりすることで、国連がどう身近かということを知らせたい。大学に入ってくる学生たちも同じです。国連ってというのは遠いものだ、と感じている。そこで、自分たちの日常が国連と無縁ではないことを話します。例えば、女性差別撤廃条約の話。日本においても、条約の批准にあわせて、女性の雇用が促進される男女雇用機会均等法がつけられたし、高校では、女子だけの必修科目だった家庭科が、選択必修になって、男女がとれるようになった。それから、国連における先住民の権利保護の取り組みに押されて、アイヌの人たちの人権が守られるような法律が国会で成立した。安全保障の問題として、北朝鮮の核実験がどうなっているのかというのは、私たちの緊急な安全保障の問題ですが、安全保障理事会はどう動くのか、など。私は大学で90人ほどのクラスを担当しているんですけど、前期に、講義で話した後10人程度のグループに分けて日本のPKO参加問題について議論をさせてみました。好評でした。環境にしても開発にしても、いろんな問題があって、国連は思うほど遠くはない、ということをお教える。高校においては、忙しいなかでなかなか難しいのかもしれませんが、大学生たちは結構、喜んでやっています。全体に対するコメントはこれくらいにしておいて、のちほど、ご質問にお答えするなり、話し合うなりできればと思います。

**司会：**本日は、ご後援をいただいている団体からも職員の皆様にお越しいただいております。それぞれの団体からどんな情報が提供できるかとか、あるいはこういう活動をしているなどご案内いただければと思います。私は国連協会の講演会には何回か行ったこ

とありますが、大変勉強になりました。本日は、協会から村岡さんにご参加いただいております。



**村岡**：国連協会から参りました村岡です。国連や国際情勢について講演会などを催しております。また、先ほど八女学院の先生にご紹介いただきましたが、「国際理解のための高校生的主張コンクール」という弁論大会もやっております、福岡県教育委員会から全ての高等学校にご案内し、たくさんの方の高校生の中から応募をいただいております。そういったものを利用していただいて、生徒さんの関心を少しでも高めていただければと思っています。また、こういうテーマで話して欲しいというリクエストをいただければ、それに相応しい講師を派遣することも、可能です。せっかく福岡にある協会ですので、大いに利用していただければ幸いです。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

**司会**：次はハビタットの星野さん、お願いします。



**星野**：国連ハビタット福岡本部から参りました、星野と申します。どうぞよろしく願いいたします。私どもの活動の中で、学校やその他の教育機関と共同でどのような活動を行っているのかということを中心にお話しをさせて頂きたいと思っております。国連ハビタットについては、パンフレットと資料を少しお配りしておりますので、詳しくはお帰りになってからお読みいただきたいと思っております。ハビタットというのは「人の住まい」、あるいは「生息地」という意味で、その名が示すとおり、人間の居住に関する問題を専門に扱っている国連機関です。約30年前に開かれた国連人間居住会議におきまして、人が適切な住まいを得る権利は、教育を受ける権利や女性の権利と同様に、基本的な人権であるということが確認されました。世界には、適切でない住まいや環境で暮らすことを余儀なくされている人たちが、戦争・自然災害あるいは貧困によって住まいを得ることができない人があまりに多い。その国の自力復興が難しいのであれば、国際機関をつくって国際社会で問題に取り組みましようということで設立されました。世界中で活動を行っていますが、地域的に申しますと、アフリカにひとつ、南米にひとつ事務所があります。私ども福岡本部はアジア・太平洋地域を統括する地域本部でございます。お配りしている地図をご覧ください。アジア・太平洋地域の28カ国を私どもの福岡の事務所が統括しております。福岡本部には23名の職員がおりまして、日本にある国連機関のなかでは、比較的に大きな事務所といえます。28カ国では、2000人を超える現地事務所の職員が日夜働いております。住まいに関わる問題の中でも、貧困削減やジェンダーなど、国連のマンデートに従って活動も行っておりますし、あるいは、より緊急な課題として、アジア・太平洋地域は自然災害であるとか紛争が頻発している地域でございますので、ミャンマーの水害であるとか、パキスタン・スマトラの津波・地震などの災害復興の事業。あるいは、パキスタンやアフガニスタンといった内紛の絶えない国で戦争復興事業などを行っております。アフガニスタンでは私ども最大の事業を抱えており、この1国だけで約1000人の現地職員が関わる事業を行っております。私どもは福岡に事務所を構えさせていただきましてから約12年になりますが、アジア・太平洋地域の統括事務所が日本に設置されることになった際、福岡県、福岡市、そして地元の経済界の皆さまを中心に積極的に誘致していただいた結果、東京でもなく、大阪でもなく、福岡に設置されることになりました。

設立から約5年を超えたあたりから、地元に対しても少し貢献できることを始めようというので、特に学校教育を通して私どもの活動を知っていただこう、と様々な活動を行っております。小学校から大学まで、県内各地の様々な学校に出前授業や出張講義をしています。あるいは学生さんたちに私どもの事務所に来ていただいて、講義を聴いていただくこともあります。小学校では「国際理解教育」というプログラムがございますけど、その一環として学校へ出向いて、大体、6年生の3学期にあわせて、「国連」という言葉が初めて教科書にでてくるのは、その頃だったと思いますが様々な活動の写真やスライド、あるいはさまざまな国の衣服、たとえば、イスラムの人たちがかぶっているスカーフなどをお見せしながら、ということが問題なのかを実感していただくというような取り組みを行っています。高校については、出張授業にも参りますが、県内の或る高校で毎年1回、英語科の生徒さんが私どものほうに見学に来られまして、外国人職員が英語で簡単に授業させていただくというような試みを約2年前から始めております。大学での講義は、県内、あるいは佐賀県まで足を伸ばしておりますけども、県内では10校近くで行っております。九大・西南・北九大等は毎年出張講義、特に西南学院大学では、正式にカリキュラムの中に入れていただいて、一昨年「国際協力論」という2単位の講義をやらせていただいております。本日は、理論と実践をなるべく近付けたい、生徒さんたちの実生活にいかに関連というものを近付けてお話しできるかが課題だというお話を伺いましたが、私どもは地域本部であり、ニューヨークやジュネーブなど、いわゆる国連の会議の場からは一番遠い場所にあります。反対に現場には一番近い所ですので、実際にどういう人たちが、どういう課題が起きたときに現場に出向き、どういう活動をしているのかということは、説得力を持って生徒さんたちにご紹介できると思います。本日お越しになられた先生から、「国連のヘルメットを学生さんに見せられるといいんだよな」という声もお聴きしましたが、現地の職員が現場で使っている道具であるとか写真などもございます。彼らがどんな危険なあるいは緊迫した状況の中で、仕事をしているかというのは、彼ら自身が撮ってきた写真等を交えてお話しできると思います。先程来お伺いしておりますと、大変時間的に制約のある中で精一杯やっつけらる中、現場の体験談やケーススタディなどというのはやはり余裕がないとちょっと難しいだろうなとは思っています。ただし、そのような現場の話というのは生徒さんにとっては強く印象に残るようですし、小学校あるいは高校の時にハビタットの人の話を聞いておもしろかったとお聞きすることもございます。ぜひお役に立てればと思っております。駆け足でございましたけれども、国連ハビタットの紹介でございました。

**司会：**次に西南学院大学寄託図書館から古庄敬文さんです。



**古庄：**古庄と申します。西南学院大学で国連寄託図書館を担当しております。私どもは大学図書館の2階に設置されております。1968年からここに置かれておりまして、それ以降の国連資料を所蔵しております。一般に公開しておりますので、どなたでもご利用になれます。図書館入口にインターホンがございまして、そちらで国際機関資料室の資料を利用したいとお伝えください。国連会議の議事録、国連諸機関の刊行物や雑誌などを置いております。国連、EU、OECDをあわせまして、大体2万冊位ございます。利用時間は朝の9時から夜の8時まで、土曜日は10時から17時まで。夏季休暇中は10時から17時までです。貸し出しは5冊までですが、30日間まで可能です。大学生についても、大学に入ってきて国連のことを知ってるかなと思いきや、ぜんぜん知らないんですよ。それで、とっつきやすい絵本や簡単な紹介パンフなどを閲覧室内の丸テーブル

ルに置いています。そんなものを取っ掛かりとしてももらいたいと思っています。学生たちには利用者教育をやっておりますが、その際に、国連について紹介し、その時々の特ピック、今年には北朝鮮のミサイル発射の問題への安保理の対応について、決議などを用意し、案内すると、興味を持ってもらえます。国際法の学生たちは模擬国連をやっており、よく資料を利用しています。高校の先生方におかれましても、一度お立ち寄りいただければと思います。

**司会：**国連広報センターから妹尾さん、お願いします。

**妹尾：**手短かに、広報センターについてご説明いたします。名前は「広報」ですが、国連本部事務局の日本の出先として、大使館的な機能も果たしております。事務総長が来日する際には、その準備に追われます。ロジ面での準備や、事務総長の記者会見の設定などです。今年の来日に際しては、グローバル・コンパクト参加企業との懇談会を行ったほか、今年12月のCOP15開催に向け、気候変動に関する啓発をめざして、テレビ出演などをアレンジしました。また、日本では今、約20の国連機関が事務所を構えていますが、国連広報センターは広報活動について、各機関の調整役を担っています。さらに、親善大使と各諸機関のサポーターのご支援を得て、広報活動も行っております。今年のイベントの目玉は、10月24日の「国連デー」を中心とした「国連ウィーク」です。国連デーには、国連の誕生日を記念する様々なイベントや行事が繰り広げられます。その1週間前の10月16日は「世界食料デー」、また翌日の17日は「貧困撲滅の国際デー」です。この日を中心に「スタンドアップ・テイク・アクション」というキャンペーンが展開されます。国連ミレニアム開発目標(MDGs)を達成するために、市民社会と国連が手をとりあって、世界で一斉に立ち上がり、ミレニアム・サミットでその達成を誓約した各国政府にその約束を果たすよう迫る運動です。日本国内においては、まだ十分な広がりはありませんが、今後、外務省と一緒に手を携えながら、大きなムーブメントへと発展させていきたいと考えております。UNウィークのポスターは、広報センターのインターン生の知り合いのデザイナーの方が無償で作っていただきました。インターネットから無料でダウンロードできます。ロゴは、ご自由にお使いいただけます。神戸にある国連事務所では、このロゴを使って、UNウィークにイベントを予定されているそうです。学校で、サークルで、ぜひお使いいただければと思います。また、広報センターは、日本語資料の提供やビデオ、写真の貸し出しも行っております。今年のプロジェクトのひとつとして、国連の写真やビデオなどを集めて、「マルチメディア・ライブラリー」を作る予定です。その他、さまざまな広報活動を行っておりますが、世界人権宣言60周年の昨年は、NGOとの協力で「人権パスポート」を作成し、落語家の桂文珍さんにサインをお願いするなどし、啓発活動を行いました。つい最近では、国連ピース・メッセンジャーのなかで唯一の日本人である、バイオリニストの五嶋みどりさんにインタビューし、私どものニュースレター「Dateline UN」に内容を掲載させていただきました。なお、このニュースレターはウェブからでもダウンロードできますが、ご希望があれば、お送りいたします。以上、国連広報センターの活動を手短かに紹介させていただきました。

**司会：**国連というものはどういうものかと、どういう活動をしているかということについて、まずは私ども教員が知って、現場で活かすことを考えてみることであれば良いと思います。もう時間が残り少なくなってきましたが、どなたか、ご意見、ご感想などおありになればどうぞ。



**参加者9：**森山と申します。私は今、実業学校で勤務しておりますが、就職する生徒が大半ということもあって、国連に関連して、必ず教えるのは、8時間労働のことです。残業や派遣が問題になっているけれど、8時間労働については、国連の創設前から、ILOでそういう話があったんだぞ、と。それから、死刑の話もします。ここら辺は死刑が執行される拘置所が福岡ドームの近くにあって、先日も執行されました。そして、人権の問題、女性の地位向上の問題に関連して、男女雇用機会均等法もとりあげます。私は学生時代、水俣病の現地にボランティアとして入っていました。鶴見和子さんや宇井純さんたちと一緒に患者さんのミカン山の営農などです。政府は水俣病の実態をきちんと把握していなかったし、その対策は国連の後押しがなければ進まなかった。国連の果たすべき役割というのは大きいと思っています。例えば、イラクにしても、アフガニスタンにしても、ペシャワール会などのNGOが援助していますよね。ここ福岡では、先日、アフガニスタンで水道を造っている中村哲さんに講演会に来てもらって、勉強したところですけど。そうしたものとハビタットの活動などをミックスすればいろんなことができるんだろうなと思っています。グローバリゼーションの時代ですから、こういう仕組み、システム、組織みたいなものがやっぱり大事だと思います。いろんな問題はあっても、そういう世界的なレベルで解決していかなくちゃいけない、と。

**司会：**ありがとうございます。一応ここらへんで終わりにしたいと思います。最後に大泉先生から一言、お願いできますでしょうか。

**コメンテーター：**今、森山先生から締めくくりに対応しいご発言をいただいたかな、という気がいたします。日本の場合、国連とは、長い間、美しいもの、平和のために何でもやってくれるもの、という感覚でみられてきました。一時期、50年代に日本は国連中心外交を唱えましたが、今は形骸化している。そういう中で出てきた問題は何？と言ったら、日本はどうやって常任理事国になれるのかな、ということ。グローバル化した世界の中でどういうふう生きていったらいいのだろうか、という問いかけの中で、国連改革を考えるのだけれど、その中のひとつのトピックだけが独り歩きして、技術的、政策的な問題として語られているところがだいたいあるのではないかという気がします。結局、イラクには、米国は国連を迂回して単独で入っていった。あれは良くなかった。だからと言って、国連は主権国家のつくる機構だから何もできない、というわけではない。グローバル化した世界の中で、国連は平和・安全だけを扱うわけではない。開発・人権・環境など、あらゆる問題を扱って、さっき3つの国連と私申し上げたんですけど、国連職員たちが汗を流し、NGOなどの市民社会、私たちも国連を動かす。理想論に聞こえるかもしれませんが、そういう仕組みを今作ろうという改革論議があるわけです。NGOは国連と協議関係・協力関係を持っていますし、いろんなことができる。様々なアクターが様々な問題について国を超えて、解決をめざす。グローバル化の中で、私たちがどう共生していくのか。誰が対応するのがいいのだろうか。アメリカ？ 日本？ EU？ 考えていくと、やはり最も多くのメンバーを持ち、あらゆる問題に関わって、しかも歴史を生き抜いて、生かされ抜いてきた、国連という組織の存在は大きい。日本人としては理想的にみていたので、幻滅するかもしれないが、主権国家だけで動かないのは当たり前の話です。

国連を教えるのは気が進まないという声がありましたが、どうぞ気を進めてください。国連は生きている、そういうダイナミックな国連を理解してほしい。「国連教育」という言葉でくくるのは適切なのかという議論はあると思います。むしろ、国連という存在を

素材にして、どう私たちが日本の国の公民として育っていくか、育てるか。同時に国際社会の一員としての公民を、まだ赤ちゃんですけど、みなさんが育ててくださるか。そういう人たちを育てていただいて、私のような人間が大学で受け取って、さらにプラスアルファを与える。大学に入って初めて国連を勉強すればいいということでは決してない。紛争下で、1日1ドル未満で生活する人たち、きれいな水を5人に1人が飲めない状況にある人たちのことを想像し、共感する力を持った子どもたちを育てる。その一環として、国連が素材となればよい、と思います。私は国連の可能性を信じていますし、だからこそ、国連について、こうして勉強を続けています。みなさんからいろんなお話を聞き、共に考えて、今あらためて、そう思っています。今日、刺激を受けたことは、それぞれの場に持って帰って、是非活かしてまいりましょう。これも何かの機会ですから、「大泉って、あんなやつだけど、ちょっと連絡とってみるかな」とお声かけていただいたら嬉しく思います。今日は、ざくばらんにもいろんなお話ができて、とってもよかったです。今度またお会いしたときに、もっと、いろいろな本音の部分聞かせてください。

**司会:** ありがとうございます。ここにお集まりの先生方が今日学ばれたことを持ち帰っていただき、それぞれの教室で生かしていただければと思います。長時間、ありがとうございます。これで会を閉じさせていただきます。

## 高等学校公民科での国際連合に関する記述について

2009年8月21日  
福岡県立修猷館高等学校  
宗 弘 昭

### 1. 公民科 新学習指導要領（2009年3月告示）

#### ○現代社会 2単位

##### 2内容（2）現代社会と人間としての在り方生き方

オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割

・・・国際平和，国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに，・・・

#### ○政治・経済 2単位

##### 2内容（1）現代の政治

イ 現代の国際政治

・・・国際連合をはじめとする国際機構の役割・・・

##### （2）現代の経済

イ 国民経済と国際経済

・・・国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させ・・・

現代社会，政治・経済ともに現行のものとは変化はない。いずれも国連について特に大きく扱っていないと思われる。ただ，政経では2(3)国際社会の政治や経済の諸課題の項目で，核兵器と軍縮について扱う項目がなくなった。新課程ではどこで扱うのであろうか。

### 2. 教科書の記述

#### ○国際連合

安全保障の形態－勢力均衡方式と集団安全保障方式，国連は集団安保方式

国際連盟の問題点

国連の組織

五大国の拒否権と平和のための結集決議

P K O

国連の活動

課題 分担金の滞納による財政難，安保理理事国のあり方，多国間主義に対するアメリカなどの反発，P K Oなど

#### ○人権条約

世界人権宣言

国際人権規約（日本の留保なども含む）  
その他の人権条約

○国際政治

難民問題のなかで難民条約， UNHCR  
UNDP と人間開発報告書  
人間の安全保障

○国際経済

IMF， GATT， WTO の役割  
南北問題について UNCTAD の役割

○環境

国連人間環境会議， 国連環境開発会議（地球サミット）， 気候変動枠組み条約などの環境条約

○国連憲章（付録として）

前文・1・3・4・5・7章  
世界人権宣言（前文）

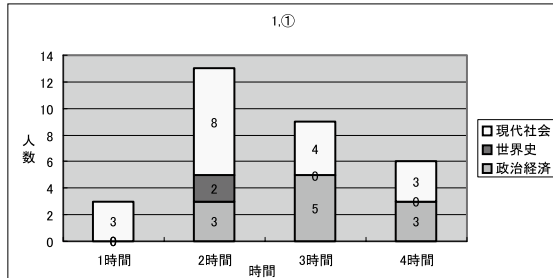
数冊の現社・政経の教科書で取り上げられているものを調べた。現社・政経とも大差はない。国連の項目では， 冷戦によって国連の機能が発揮しにくかったこと， 課題に挙げた点が解決しにくいことなどの負の面を記述したものが多い。一方で， 国連が世界のほぼ全ての国を含むようになり， 世界の議会になっている点を強調しているものもある。

国連の項目以外でも， 環境・人権・国際経済などで国連や国連機関の活動が記載されている。しかし， 国連であることは強調されていない。この点は， どう評価したらよいのだろうか。

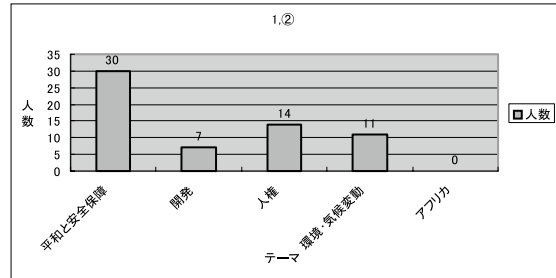
## 国連教育に関するアンケート

### 1、国連をどう教えているか。

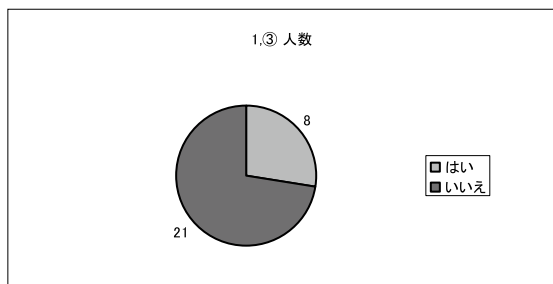
① 1年間にどのくらい国連についての授業を行っていますか。(定型カリキュラム含む)



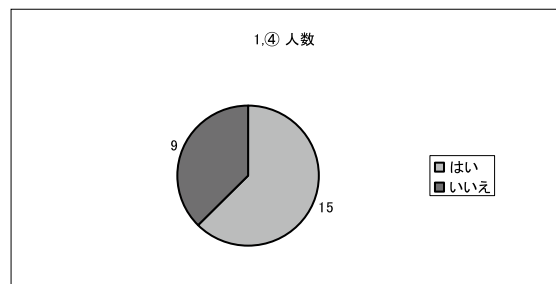
② 主にどのような国連に関するテーマについて授業を行っていますか。(複数回答可)



③ 国際年や国際デーに関連したテーマについて、授業を行ったことがありますか。



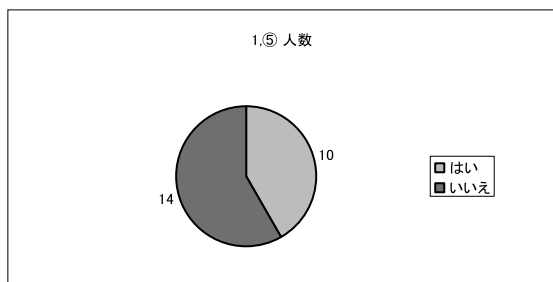
④ 教科書の国連の記述は十分だと思いますか。



\* ④でいいえとお答えになった場合、どのようなところが不十分かをご記入下さい。

【組織記述が多い。国連の課題や改革。リアルな説明ほしい。現実を反映していない。運営のあり方。教科書の内容にとどまる。PKOわかりにくい。安全保障に踏み込むべき。戦勝国の秩序、敵国条項。】

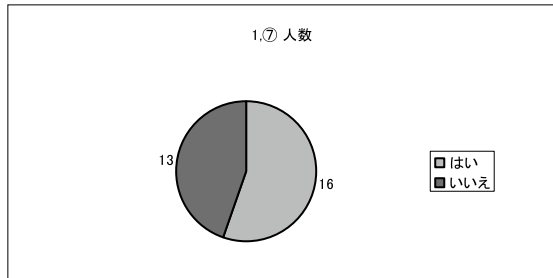
⑤ 国連についての授業で教科書以外に補足教材を使用していますか。



⑥ はいとお答えになった場合、教材名をご記入下さい。

【資料集 8名、ユニセフ刊行物 3名、子供の権利条約、ネット、新聞、外務省】

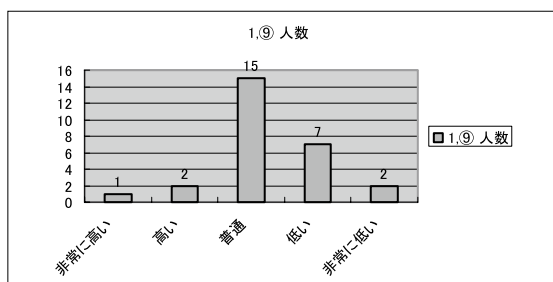
- ⑦ 授業で国連の発行する一次資料（決議、文書、刊行物、プレスリリース、広報資料など）を使用したいですか。（すでに使用している場合は1をチェックしてください）



- ⑧ ⑦について理由をご説明下さい。

【具体的活動がわかる。写真つきでよくわかる。総会議事録、人間の安全保障が大切。原文は難しい、余裕がない、一次資料は難しい。】

- ⑨ 国連/国連に関するテーマに対する生徒の興味/関心についてお答え下さい。



- ⑩ 生徒たちがもっと興味を抱いていると思われる国連の活動についてお答え下さい。

【P K O、地球環境問題、途上国援助、難民救済、安全保障、N G O、ユニセフ、ユネスコ、W H O、P K O活動、世界遺産、分担金問題、北朝鮮制裁】

- ⑪ 将来、国連職員を目指す生徒にどのようなアドバイスを行っていますか。

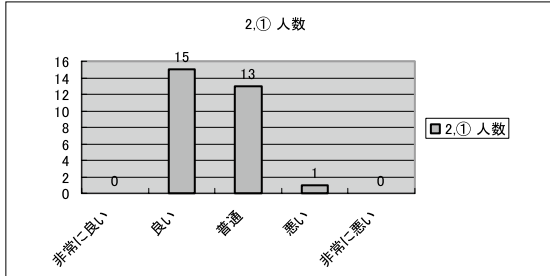
【いない、語学の習得、大学院まで行くこと、コミュニケーション能力育成、いろいろなことを吸収しておく、広い視野を持つ、国際社会の動向に敏感になる、ふさわしい大学に入る】

- ⑫ その他ご意見・ご要望がございましたらご記入下さい。

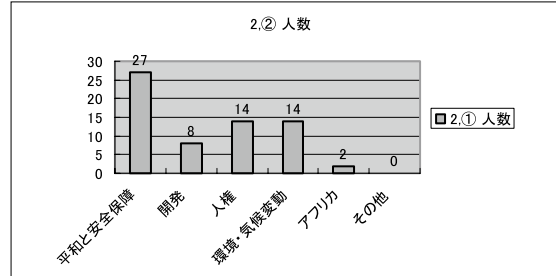
【福岡らしくハビタットの授業がしたい。】

## 2、教師自身の意識・関心

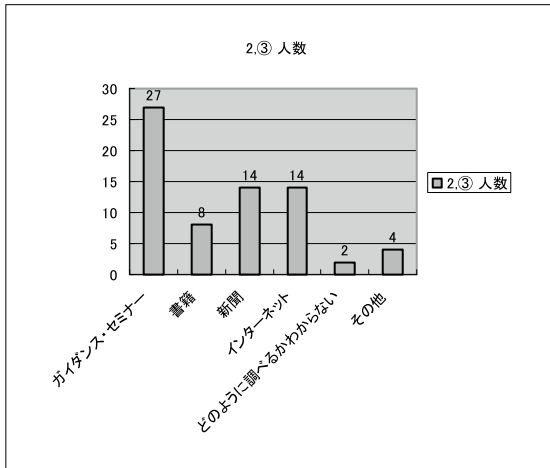
① 国連についてどのようなイメージをお持ちですか。



② どのような国連の活動に興味がありますか。(複数回答可)

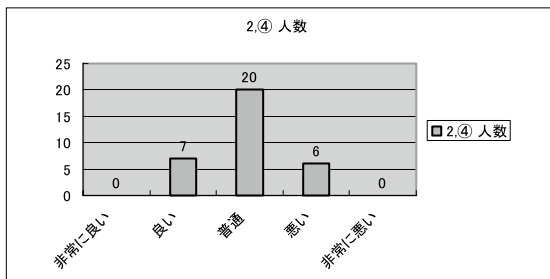


③ ②でお答えになった活動についての情報をどのように入手されていますか。(複数回答可)



\* その他・・・国連広報センター、TV ニュース、パンフ、NGO への参加

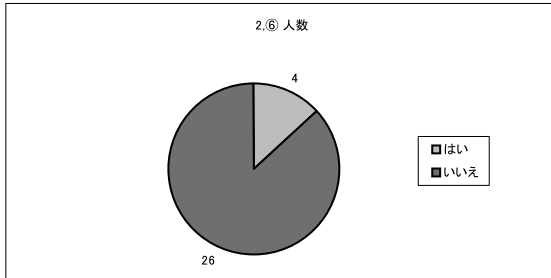
④ 国連 / 国連の活動についての情報は入手しやすいですか。



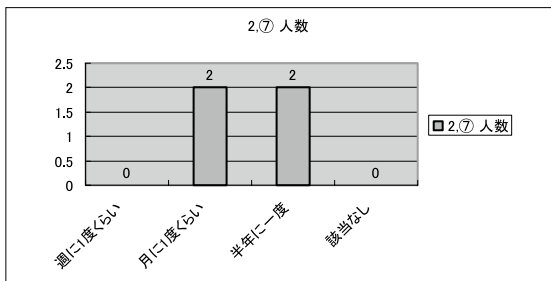
⑤ ④について具体例があればご記入下さい。

【広報センターがていねいに教えてくれる。日本語HPの充実を望む。】

⑥ 国連について同僚とお話 / 論議されますか。



⑦ ⑥ではいとお答えになった場合、その頻度についてご回答ください。



⑧ これまで参加された国連に関する活動(ミッション・ボランティア・セミナー・その他イベント)がございましたらお教え下さい。

【ユニセフ、参加したが忘れた】



## 国連教育ワークショップ 実践報告レジュメ

◎使用教科書 『政治・経済』（東京書籍）

◎単元構成（配時） 第1章 現代の政治 第5節 現代の国際政治

小单元名	指導書上の配時	実際の指導時間
1. 国際関係と国際法	1	3
2. 国際社会の組織化	2	8
3. 国際政治の動向	1	3
4. 国際政治の課題	1	3
5. 地球市民社会の形成と課題	1	1
6. 地球環境問題	1	3
7. 地球社会における日本の役割	1	3
計	8	24

### ◎指導内容について

国連に関しては小单元「2. 国際社会の組織化」で取り扱うが、指導時間として配当している4時間の内訳と指導上のポイントは以下のとおりである。

#### ①勢力均衡と集団安全保障【1時間】

（指導上のポイント）・「勢力均衡」と「集団安全保障」の枠組みの違い  
・前者が安全保障のジレンマに陥りやすいこと

#### ②国際連盟の成立と挫折【1時間】

（指導上のポイント）・国際連盟の組織  
・国際連盟の欠陥（弱点）・・・（例）大国の不参加・全会一致条件付き経済制裁のみ

#### ③国際連合の成立と組織【2時間】

（指導上のポイント）・国際連合の組織  
・安全保障理事会常任理国の拒否権と平和のための結集決議

#### ④国際連合と平和の維持【2時間】

（指導上のポイント）・常設国連軍（未設置）とPKOの違い  
・PKOの種類  
・PKOの変容

#### ⑤国際連合の課題【1時間】

（指導上のポイント）・国連改革（例）分担金問題、安保理改革、多国間主義の崩壊

#### ⑥地域統合の進展【1時間】

（指導上のポイント）・国連活動と地域統合との関係

### ◎今後の課題

#### ○研修（学ぶ機会）のさらなる必要性

例えば「④国際連合と平和の維持」【2時間】の中で、PKOについての指導を行うが、  
a) 教科書に記載のある「第1世代PKO」・「第2世代PKO」・「第3世代PKO」の具体的な違い

#### b) PKOと平和のための結集決議の相違

など、まだまだ指導者自身にとっても理解が不十分な部分が多い。

#### ○「国連教育」の目的・概念の明確化

#### ○時間的な制約をどうするか

2010年2月

国際連合広報センター

東京都渋谷区神宮前5-53-70

国連大学本部ビル（UNハウス）8階

〒150-0001 電話 03-5467-4451



